

火防日本総本廟

秋葉三尺坊大権現

栃尾市街地の中央、常安寺の背後の丘の上、秋葉公園にまつられている。目の前には栃尾城跡の雄姿がくっきりと迫り、眼下には西谷川が流れ、また目を転ずれば「羅生門の鬼」で知られる茨木童子の里に立つ鬼倉山が見える。

境内は松や桜に囲まれ、上杉謙信公の銅像、歌碑などがここあそこに建てられている。ここは栃尾の人々の憩いの杜であり、景勝の地である。本社に続く神社の奥の院の彫刻は、有名な石川雲蝶が彫ったもので、市の文化財に指定されている。

秋葉信仰は火伏せ（火防）の山岳信仰である。「秋葉大権現」「秋葉山」などとも言われ、その信仰は全国に及んでいる。当神社はその秋葉信仰の二大霊山の一山で、遠州（静岡県）の秋葉寺とともに日本総本廟の称号をもつ。徳川時代、両社は本末を争ったが寺社奉行はこれに対し、遠州の秋葉三尺坊は布教弘風の地で「今の根源」、越後栃尾の秋葉三尺坊は行法成就の地で「古来の根源」と呼ぶようにと裁決を下した。

秋葉信仰の祖「三尺坊」は実在の人物で、信州（長野県）戸隠に生れたという。諸国を修行中、岩野の蔵王（長岡市楡原）に至り、十二坊のうちの般若院叶坊に入り修行を続けた。

岩野の蔵王は奈良県吉野山から勧請した蔵王権現がまつられていて、この地方における修験道の一大中心地であった。もっとも盛んなころには、蔵王堂を中心に十二坊もの坊堂が建ちならんでいたという。三尺坊はここで不動の行法を修め、飛行自在の神通力を得た。このとき現れた白キツネにのり、空中を飛行して遠州の秋葉山に降りたった。そして安住の地にしたという。

三尺坊は秘法を会得したとき、「もし我が名を呼ぶものがあれば願を入れ、七難を滅する。」と叫んだことから、一山の衆徒は驚き恐れ、秋葉の地に社を建ててこれをまつり、般若院を別当寺に当てたという。

岩野の蔵王権現はその後三島郡矢田（長岡市寺泊）を経て長岡の現在地（金峰神社）付近に移転したが、般若院と供僧は、同地にとどまった。

瑞麟寺の消失後、上杉謙信公は谷内に常安寺を建立したが、その後さらにこの般若院とその寺領を開基の印として寄進し、常安寺の背後の秋葉山上に遷宮をした。

謙信公が常安寺開山の門察和尚にあてた安堵状には、
「先年思いがけない戦いがあったとき、（あなたの）忠信は比類なきものでありました。よって当寺の開基の験（しるし）として般若院分並びに法用寺分を寄進します……略 天文二十年三月二日 景虎」

秋葉神社の本尊は威徳大権現で、「火伏せの神」として霊験あらたかなため、越

後内外に多くの信者を持ち、また各地に講がつくられている。

特に江戸時代の中頃から、寺社詣でがさかんとなってから信仰も広がり、毎月二十四日の三尺坊の命日には、境内は参拝者であふれたという。そして門前には市が並び、定期の交換の場となった。今日の市日のはじまりである。

七月二十四日には馬市がたち、近郷近在をはじめ遠くからも馬喰（ばくろう）たちが駆けつけ、馬の売買が行われた。この日は栃尾郷内全体が休みとなり、多くの出店や諸行事が行われ、お祭りそのものであった。

蛇足であるが、ジャンボな油揚げとして有名な「栃尾あぶらげ」はこの時、馬喰たちが売買成立に酌み交わした酒の肴にわしづかみにして食べるのにちょうど良い大きさに作られたものであるという。

諏訪神社春季大祭の大名行列もまた秋葉三尺坊大権現の行事で、お神輿（みこし）などの神事と大名行列を合わせた華麗な祭りである。明治の廃仏毀釈により、現在は諏訪神社に移管されて行われている。